

富山市立図書館

図書館だより 第15号



平成 16 年度蔵書点検と 14 歳の挑戦

目 次

特集 1 先進図書館見学記 湖国(滋賀県)の二大町立図書館.....	2
特集 2 図書館資料の除籍・廃棄とリサイクル.....	3
いちおしライブラリー 第3回「自伝を読む」.....	4
山田孝雄文庫の資料 15「安西雲煙の蔵書印」.....	6
レファレンスあれこれ.....	7
こんな事業を行いました.....	8
新しい雑誌が増えました.....	8

先進図書館見学記

湖国(滋賀県)の二大町立図書館

《 愛知川町立図書館 》

1. 図書館の概要

愛知川町は、琵琶湖の東に位置する人口1万1千人余の小さな町です。図書館は平成12年12月に開館しました。“ゆうがくの郷”と名づけられた複合施設には、図書館のほか、「びんてまりの館」とやすらぎ公園が併設されています。平屋造り2,600㎡の館内は、天井の高い開放的な空間に木製の低書架が並んでいます。



2. 図書館の特徴 - 住民参加型の図書館

- (1) 図書館の敷居を低くし、地域に根差す図書館づくりを目指して、毎月の企画展示にも工夫がこらされています。例えば、「大草原の住居と暮らし」という企画展示では、モンゴル遊牧民の写真や調査資料の掲示だけでなく、参加者を募集しゲルの組立を行ったり、馬頭琴コンサートの後にゲルの中でモンゴル民話『スーホの白い馬』を読み聞かせたりしたということです。
- (2) 町民が未来に残したいと思う、町内の自然、歴史、建造物などを記録する“町のこしカード”を図書館が収集、整理しています。提供された町の古い写真を使って、展示会を行い、それを見て寄せられた町の歴史情報をもとに小冊子を作成するといった活動もしています。

* 渡部幹雄館長が著された『図書館を遊ぶ』(新評論/刊)という本にも、愛知川町立図書館の話が詳しく書かれています。

《 能登川町立図書館 》

1. 図書館の概要

北を琵琶湖、南を愛知川町と接する町は、人口およそ2万3千人。住民意識調査で図書館設置の要望が第1位だったことを受け、平成9年11月に開館しました。能登川町総合文化情報センターとして、埋蔵文化財センターが隣接、博物館が同一館内(2,159㎡)にある複合施設になっています。

2. 図書館の特徴 - 滞在型の図書館

- (1) 一目で見渡せるワンフロアの館内は、子どもの本コーナーと一般書のコーナーが、低くて長い半円形の書架で区切られています。庭に面して大きなソファが並んでいたり、畳敷きのコーナーがあったりと、ゆっくり滞在できるように工夫されています。
- (2) 喫茶スペースには、家庭で不用になった本を持ち寄るコーナーがありました。
- (3) 企画展示にも力が入っており、乾千恵さんの書展をきっかけに『もじと絵』(文字/乾千恵、絵・ことば/黒田征太郎 アートン/刊)という本が生まれたそうです。



才津原哲弘館長の「利用者が求める資料や情報は、草の根をわけても探し出し提供するとともに、住民同士の語らいの場・情報交換の場、様々な活動を伝え、広める町民の“広場”としての図書館を目指します。」との言葉に、同じ図書館員として共感しました。

(児童奉仕係 清川)

図書館資料の除籍・廃棄とリサイクル

なぜ除籍・廃棄が必要なの？

図書の内容(利用の価値)を評価して、いったん図書館の蔵書としたものは、未永く保存すべきなのではないか。古い昔の出版物も蓄積して、いつでも閲覧・貸出できるようにしているからこそ図書館の存在価値があるのではないのか。

このような疑問を抱かれるかたも多いことと思います。しかし、除籍・廃棄するには、それなりの理由があります。なぜ除籍・廃棄が必要なのかということ、およそ次のような理由からです。

容器の大きさから

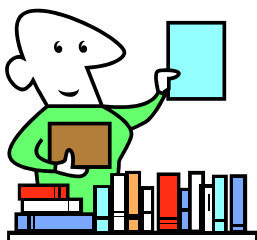
図書館の収蔵スペースは有限であるため、すべての蔵書を永久保存することはできません。では富山市立図書館はどれくらいの収蔵容量があるのかといいますと、中央館では約40万冊15分館で20万冊程度、富山市立図書館全体で60万冊であります。毎年25,000冊ずつ受入すると24年で満杯になる勘定です。もし富山市として50年前の(つまり1950年代出版の)本を保存すべきだと考えるとしたら、単純に計算しても富山市全体では125万冊の収容施設を、ことに中央館は100万冊以上の収蔵能力がなければなりません。

資料の内容・形態から

資料(図書・雑誌・新聞)の中には資料の内容や形態上の理由により、価値が変質または滅失するものがあります。つまり賞味期限つきの本があるということです。たとえば医学の本は古くなると危険でさえありますし、法律の本やコンピュータの本などは古いものは見向きもされません。

上手く経営するため

図書館の経営上、保存・運用のための経費と利用の効果を考慮すると、県立図書館などと分担し合い、保存にはあるていどの制限が必要になります。本は形のあるものであり、したがって1冊あたりが専有する面積は小さいとはいえ、1冊の本を保存するには施設の建設・維持費がかかります。古くなって利用のなくなった複本を保存するのは、経費対効果を考えなければなりません。



どんなものが除籍・廃棄されるの？

では具体的に、どのようなものが除籍・廃棄されるのかというと、図書館では「除籍・廃棄要綱」という基準を成文化して、その基準によって除籍・廃棄する資料を抽出しています。

その要綱では次のような資料を廃棄対象としています。

汚損・破損のひどいもの

内容が改訂されたあとの旧版

利用の少なくなった複本

内容が陳腐化したもの

カラー図版など変色・褪色が著しいもの

将来も利用が見込めないもの

刊行後20年を経過した実務書・入門書

リサイクル事業の目的は？

しかし、こうして除籍・廃棄される資料の中には、まだなにがしかの存在価値が残っているものもあります。図書館にとっては不用の長物となってしまう今でも、私には有用であると言われて、譲受けを希望される市民のかたも少なくありません。

また廃棄処分する経費の節減を図りたいという図書館の財政事情もあります。

それから市民の中には子育ても終り、子どもたちに不用になった児童むけ図書を、他の家庭で再利用してもらえないかという声もありました。

こうしたことから、リサイクル事業を実施することとしました。

今回が初めて？

このようなリサイクル事業ですが、理念はともあれ、どれほどの実績があったのかと申しますと、まず、平成12年(2000)年当館開館30周年記念事業として「子どもの本のリサイクル広場(5月)」「雑誌のリサイクル市(10月)」を開催したのを皮切に、15年(2003)「子どもの本のリサイクル広場(5月)」「図書のリサイクル広場(11月)」と実施してきました。昨年度の「子どもの本のリサイクル広場(5月)」では3,604冊、「図書のリサイクル広場(11月)」では8,314冊の再利用がありました。

今年度も、11月3日(文化の日)に「リサイクル広場」を開催します。広場に陳列される図書7,400冊・雑誌2,600冊が、最後の読み手となるあなたをお待ちしています。

(月岡分館 坂元)

『いちおしライブラリー』 第3回 自伝を読む

いわゆる「伝記」本は数多く出版されており、図書館でも書架の1コーナーを多く占める分野である。今回の「いちおしライブラリー」では、その中からとくに本人の手になる伝記である「自伝」をいくつかご紹介したい。

『風と光と二十の私と』 坂口安吾 / 著
〔ちくま文庫『坂口安吾全集』(筑摩書房)等に収録〕



坂口安吾といえば、有名な『墮落論』を書き、無頼派と呼ばれた作家である。日本文学史に残る作品を数多く書いた一方、神経症の反動から、しばしば暴力沙汰を起こすなど、奇矯な行動も見られた破天荒な人物でもある。

この作品は著者が二十歳のころ、小学校の代用教員だった時代の思い出を綴ったもので、エッセイ風の小品である。先に書いたような破滅的人物が、いったいどんな先生だったのか、と初めはいささか不安も感じるが、意外や、これが実に爽やかな先生ぶりなのだ。

他の先生から札つき扱いされている、やんちゃな男子生徒の美点を見抜き、かわいがったり、自分たちになじもうとしない子供を、ひねくれ者よばわりする母親に対し、「いや自分の見るところ、お子さんはひねくれてなどいない。あなた方になじもうとしないのは、あなた方のお子さんに対する愛情が欠けているからだ」と喝破したり、といった具合である。若き日の著者が、生徒たちに向けて優しい視線をそそぎ、真摯に接していたことがうかがえる。生徒たちからも慕われていたようだ。著者はわずか一年後に代用教員をやめてしまうのだが、このまま先生を続けていたら、立派な教育者になっていたかもしれない、と思わせる。もっとも、そうなっていたら、おそらく「無頼派作家・坂口安吾」も存在しなかったであろうが。ともあれタイトルどおり、爽快な魅力にみちた一編である。

『マイルス・デイビス自叙伝』 マイルス・デイビス、クインシー・トループ / 著
JICC出版局

「ジャズの帝王」と呼ばれ、数々の名作・名演を残したトランペット奏者、マイルス・デイビスが逝って、はや13年が過ぎた。にもかかわらず、その人気はまったく衰えを知らない。それどころか、彼への評価は高くなる一方ですらある。この本は、「半年も昔にやったことなど、古臭くて二度とやる気にならない」と豪語したほど、過去を振り返ることを嫌った彼が、人生を回顧した自伝である。



全編が語り口調のため、彼がふだんから使っていると思いき毒舌や、強がりも多く含まれているが、行間から覗く彼の素顔は、じつに興味深い。「帝王」のあだ名どおり、時には傲慢とも思える態度で、気に入らない人間に容赦ない毒舌をあげせる一方、ともに傑作と呼ばれる作品を作り上げた、グループのメンバーに対しては、賞賛を惜しまない。かと思えば、下積み時代には、意思の弱さから麻薬中毒になってしまい、両親に世話をやかせたり、有名になってからも、しょっちゅう浮気をしては(妻や恋人を含む)女性に迷惑をかけっぱなしの「ダメ男」でもあるのだ。

しかしながら、その「帝王=ダメ男」が遺した音楽は、どれも胸をうつ素晴らしいものばかりである。ジャズに



はあまり馴染みがないという方も、一度ぜひ彼の音楽を聴きつつ、この自伝を読んでみることをおすすめしたい。

『五体不満足』 乙武洋匡 / 著 講談社

大ベストセラーを記録した本である。きっと多くの方が、すでにお読みになったことだろう。ではすでに読まれた方は、どのような感想をお持ちになったのだろうか？ 私が、家族や友人・知人ら（図書館職員では



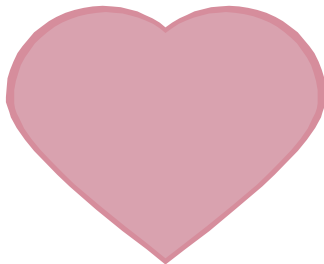
ない)に感想を聞いてみたところ、「こんなに重い障害を持っているのに、えらい」「がんばって生きているところが、立派だと思った」というような答えが多かった。

ところがよく読んでみると、この本は案外「どこにでもいそうな」青年の生活が描かれたものなのだ。友達と遊んだり、スポーツで盛り上がったり、キャンパスライフを楽しんだり、といったことは、程度の差こそあれ、ほとんどの人が似たような経験をしているのではないだろうか。ただし、著者が「先天性四肢切断」という障害を持っていることによって、「どこにでもいそう」ではなくなってくる。それによって、障害者でない読者にとっては「がんばっている」印象を受けるのだが、著者自身にそういった意識はなく、あくまで自然体でふるまっているようである。

さらに、著者はこの本の中で「心のバリアフリー」を実現したいと、くりかえし訴えている。では「心のバリアフリー」とは何なのか？ それは実現されつつあるのだろうか？ 障害者といわれる著者と、健常者といわれる人々は、どこが違うのか？ もしくは同じなのだろうか？

もちろんこの本は、一人の障害者である著者の人生が描かれたものだが、それだけに終らない、すべての人への問いかけが隠

されていると思う。まだの方はもちろん、すでに読まれた方も、もう一度読み返してみる価値は十分あるのではないだろうか。



「自伝」は、その人の人生「ありのまま」が提示されたものだ。そこから何を読み取るかは、すべて読者次第である。その人の生き方に、おおいに共感する場合もあれば、「それはちょっと？」と疑問を持つ場合もあるだろう。あるいは、自分の人生を考えなおす、きっかけになることもあるかもしれない。秋の夜長、一人の人生とじっくり向かい合ってみてはいかがだろうか。

(中央館 舟山)

行ってみよう図書館 サイクル 広場

素敵な本に出会える日

11月3日(祝日)

除籍手続きを経て不要となった一般用の図書や雑誌約8,500冊を、無料で提供いたします。
*なるべく、持ち帰り用の袋をご持参ください。

時間：午前9時～12時30分

会場：富山市立図書館 3階

*当日は休館日のため、図書館業務は行っていません。



実用書や小説、雑誌などがたくさんあります！

お問い合わせ 富山市立図書館 電話 432-7272

山田孝雄文庫の資料 15

「安西雲煙の蔵書印」

山田孝雄旧蔵の和古書には蔵書印の押されているものがあり、その印文の判読と、使用者の確認には、骨が折れる。使用者が分ってみると、書物それ自体の内容はともあれ、かつては著名な人士の持物であったことから、その書物になにか一種の箔がつくような心持ちになる。今回その代表的な例を展示しているが、ここではその内の一つを紹介する。



蔵書印というものは、「所蔵者がその所有を表す目的で収蔵典籍書画類に押捺した印影、またその印類」(『日本古典籍書誌学辞典』)である。従ってまず所蔵事実の明示という機能があり、また「愛玩的心情の美

化という趣味性」がある。このため、様々な意匠が凝らされていることもしばしばである。とりわけ印文には蔵書家の愛書心理がにじみ出ているものがあり、安西雲煙の蔵書印などはその例である。



俗に「蔵書は一代」とも言われ、書物は数奇な運命に翻弄されるものようであるが、愛書家としては、未永く家に蔵し、子孫に伝えたいと思うものである。安西雲煙の蔵書印は、この心理をそのまま表した印文「子孫永保雲煙家蔵書記」である。



縦7cm横5cm淡青色の印影で、上欄には左から横書で「子孫永保」中央には「雲煙家/蔵書記」と縦二行書にし、右の袖には何巻揃いかを記入する欄が設けてある。

山田孝雄文庫では、『源氏男女装束抄』(3冊)に、この蔵書印がある。押捺してあるのは、各冊とも前表紙の見返しであり、本文に印を押してないのは、書物を蔵書印で汚したくなかったからであろう。

安西雲煙は近世後期の書画商にして鑑定家である。屋号は和泉屋帟吉、雲煙道人は号である。4歳のとき安西氏の養子となり、12歳にして書肆玉巖堂和泉屋金右衛門方へ奉公、天保2年『近世名家書画談』を刊行する。晩年には画論『鑑禅画適』を著した。(『日本古典籍書誌学辞典』による)

(中央館 亀澤)



山田孝雄文庫資料展示

『山田孝雄文庫の蔵書印』

会期：10月27日(水)～12月28日(火)

会場：富山市立図書館 6階 山田孝雄文庫

蔵書印は古書の由緒来歴を伝えています。
山田孝雄博士旧蔵書の著名な蔵書印を紹介し、
古書の由緒を明らかにします。

レファレンスあれこれ

Q．富山市や他の市町村の合併の歴史・沿革について知りたい。

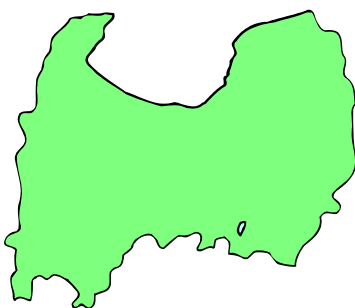
A．きたる平成17年4月1日に富山地域7市町村の合併予定を控えて、上記のような質問がしばしば寄せられています。

富山市に重点を置いて合併の流れを知りたい場合、『統計から見る富山市』『富山市統計書』などに市域の変遷としてアウトラインが示されていますが、より詳しく調べたい場合は『富山市史 通史 下』をご覧ください。中の<富山市の誕生>や<昭和初期の大合併>、<市町村の合併>といった章段に、富山市域の合併の流れについて詳しく解説されています。

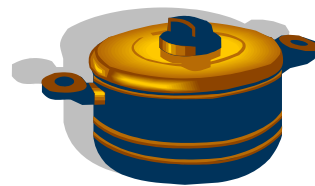
一方、県内全域にわたって市町村の合併の動きについて調べたい場合には、『富山県史 通史編 近代』のほかに『富山県市町村の歩み』(1955)や『富山県町村合併誌』上下巻(1961)などがあります。特に『富山県町村合併誌』は明治期の町村が合併・編入をくり返し現在の市域となっていく過程が表で一覧でき、わかりやすくなっています。ただし、この本は1961(昭和36)年発行のため、それ以降に合併した水橋町・呉羽町については別個に紹介されています。

このほか、須山盛彰先生が執筆された『富山県における市・町村合併の経緯と問題点』(『自然と社会』第68号別刷、2002)という小冊子があり、最新の情報源になっています。

なお、現今の県内市町村合併の動きについては、新聞記事をまとめたものを参考図書室に備えていますので、そちらもご利用ください。



Q．ギリシア料理にはどんなものがあるか。できれば自分でも作ってみたいので、レシピを写真つきで紹介した本を見たい。



A．ちょうどアテネオリンピックの開催の時期にあわせて、上記のような質問が寄せられました。フランス料理やイタリア料理ほど日本では一般的なものではないため、普通の料理の本では見つかりませんでした。

『世界の味探求事典』(東京堂出版、1997)では、【ギリシア料理】の項目の中に「ギリシア料理の特長は、トマト、オリーブ油をよく使う。味付けの濃い料理が多い。ギリシア正教徒は豚肉を食べない。仔牛肉、仔羊肉、鶏肉、タコ、イカ、ジャガイモ、ナス、キュウリ、ピーマン、キノコをよく用いる。」と書かれており、メゼデス、タラモサラタ、トゥルシ、ムサカなどが代表料理としてあげられています。しかし写真がないため、これだけではどんな料理かわかりにくいのが惜しまれます。

次のようなギリシアのガイドブックにも、ギリシア料理についてのページがあります。

『ギリシャを知る 世界遺産とエーゲ海』(PHP新書)(PHP研究所、2004)

『ワールドガイド ギリシア・エーゲ海』(JTB、2001)

『各国大使館発 世界の食卓 ヨーロッパ編』(家の光協会、1996)

こちらはカラー写真が簡単な解説といっしょに掲載されています。

かえて子ども向けの本に、ギリシア料理のレシピが写真・イラストつきに掲載されていたので合わせてご紹介します。

『世界の料理絵本』(キャロライン・ヤング著、集文社、1993)

『世界の国ぐに その国土と人びとの暮らし9』(ポプラ社、1978)

(中央館 宮本)

こんな事業を行いました



講座「私たちの暮らしとお金を考える」を9月17日、24日、10月1日の3回にわたって、とやま市民交流館で開催しました。

野村証券のファイナンシャルプランナー日塔寿さんを講師に迎えて、毎回約50名の

参加者が、経済や金融についての講義を聴講しました。

参加者には高齢者の方が多く、自分で守る暮らしへの関心の高さがうかがわれました。



図書館1階のリニューアルを行い、10月8日(金)に「音訳サービスコーナー」を開設しました。活字による読書に困難



をもつ視覚障害者の方のために、図書を音訳して吹き込んだカセットテープ約2,800タイトル、総巻数22,000巻を所蔵して、貸出を行います。

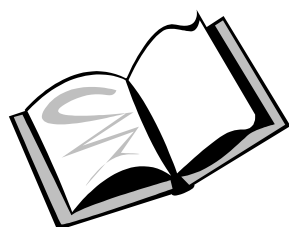


なお、1階には展示コーナー「松川ベリギャラリー」もあります。

新しい雑誌が増えました



	タイトル	出版社	発売日	ジャンル
中央館一般室に入った雑誌				
1	たまごクラブ	ベネッセコーポレーション	毎月15日	育児
2	ひよこクラブ	ベネッセコーポレーション	毎月15日	育児
3	たまひよこクラブ	ベネッセコーポレーション	毎月15日	育児
4	月刊致知	致知出版	毎月5日	教養
5	暮らしとパソコン	ソフトバンクパブリッシング	毎月18日	生涯学習・パソコン
6	ダカーポ	マガジンハウス	毎月第1、3水曜日	総合週刊誌
7	陶磁郎	双葉社	1、4、7、10月の16日	陶芸
8	月刊エフ	主婦の友社	毎月28日	婦人
9	和楽	小学館	毎月6日	婦人
とやま市民交流館図書サービスコーナーに入った雑誌				
1	園芸ガイド	主婦の友社	奇数月の8日	園芸
2	花時間	角川書店	毎月7日	園芸
3	レタスクラブ	SSコミュニケーションズ	毎月10、25日	生活情報誌
4	my40'S	主婦の友社	毎月1日	婦人



平成16年10月20日 富山市立図書館 編集・発行
富山市丸の内1丁目4-50 TEL 076-432-7272
HPアドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>
E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp